

## 令和5年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	事業の名称グローバルな視点を基にした小中一貫カリキュラムの開発・推進（特別支援学級との連携・共同学習を含む。）事業
事業実施代表者名	寺田 貴雄（札幌小）、萬谷 隆一（札幌中）
実施附属学校園名	附属札幌小・中学校ふじのめ学級
事業内容 （実施内容について、500～1,000字以内で記述）	<p>昨年度まで実施してきたグローバルな視点を基にした小中一貫のカリキュラム視点による教育の実践的研究並びに、通常学級、特別支援学級におけるインクルーシブ教育についての実践事例研究を継続して実施した上で、小中一貫カリキュラムの開発・推進に繋げる。</p> <p>小中一貫した教育の実現のために、子どもの実態を共有し、最大9年間の附属での学びの中で育てたい人間像、具体的に育成すべき資質・能力等を整理して教育課程に反映させていく。</p> <p>特に大学と附属学校が共通して育てたい人間像の要素として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究心をもち学び続ける人間</li> <li>・広い視野をもち、考え、行動できる人間</li> <li>・人との関わりを大切にする人間</li> <li>・共に生きることのよさを感じる人間</li> </ul> <p>の4点を定めた。これに基づいて、小学校から中学校までの発達段階、また大学生までのスパンでの育成過程を想起し、日常の授業や学校行事等を通して子どもの実態や問題を捉え、小・中・特別支援学級と大学の臨床研究や先端理論等を実践の中で往還させるカリキュラムの開発を進めていく。</p>
成果と課題 （活動の成果と課題について、500字程度で記述）	<p>《成果》 今年度は、小・中・特別支援学級で合同の研究会議をもち、各研究の内容の共有と求める子ども像について意見交流をした。また、研究大会や授業公開に相互に参加し、子どもの実態や問題を把握する取組を進めてきた。児童・生徒の安全に関すること、児童・生徒ならびに保護者の対応として留意すべきことなどについての連絡を密にして、効果的な指導を進めることができた。</p> <p>《課題》 教科・行事等において育成したい資質・能力等について、具体的なレベルでの取組には至っていない。次年度の課題として、本校における児童・生徒の実態を様々な観点からの観察を行い、長所として伸ばすべき点と改善的に育成すべき点を共有する。そのうえで各教科等をはじめ、登下校の指導も含めて学校生活全般を教育課程の対象として、具体的な検討を進めていきたい。</p>

<p>今後の発展性  (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>小中一貫した教育の推進には、学校種間だけでなく保護者や地域の参画が不可欠であり、この部分の理解を得られる取組が必要となってくる。また、附属学校における小中一貫した教育は単に接続性だけでなく、内容面の段階性をカリキュラムとしていかに実現していくかに注目が集まることから、本事業を共通研究の軸として取組を進めていく。</p> <p>また、小中一貫した教育についての先進的な取組を進めている他の附属学校への視察、札幌市立学校の進めている小中一貫した教育のパートナー校の取組などを参考にして、具体的な教育課程の編成に資する情報収集や「小中ふ連携委員会」を共通した校務分掌として小中ふでそれぞれ位置づけるなどの取り組みを進めていく。</p>
<p>事業の公表状況  (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>今年度はなし</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。